

気になるニュース わたしの視点

日銀は昨年12月20日の金融政策決定会合で、長期金利(10年国債)の変動幅を従来の±0.25%から±0.5%に拡大した。この報道は翌21日付の岐阜新聞ほか各紙の1面で大きく取り上げられた。欧米諸国がインフレ対策として利上げを重ねる中、日本だけがかたくなに超低金利を維持した結果、内外金利差の拡大から円安を招くとともに、金利体系にゆがみが生じ債券の発行・流通市場の機能に支障が生じていたため、金利の上昇余地を広げたものである。

東濃信用金庫会長 市原好二氏

日銀、長期金利の変動幅拡大



いちばら・こうじ 1954年、多治見市生まれ。名古屋大学法学部卒業。日本銀行函館支店長、同京都支店長を経て、2009年6月、東濃信用金庫理事長に就任。21年6月から同金庫会長。趣味は温泉、美食探訪。多治見市在住。

この異次元の量的緩和と政策(過剰流動性)、超低金利政策を長く続けることにより、財政規律の緩み(安易な国債発行)、経済の新陳代謝(企業の廃業・創業の循環)の遅

れを招いたといえよう。今春、日銀総裁が10年ぶりに交代になる。大変難しいかじ取りになるが、新総裁の下で金融政策の変更が金融・証券市場の過度な反応を招かないよう細心の配慮をしながら機動的・弾力的に実行されるように期待したい。今回の長期金利変動幅の拡大が、その一歩であることを信じていたい。平成初期から30余年続いた「失われた日本経済」の失地

日銀 事実上の利上げ

大規模緩和を修正 物価高、円安で転換

長期金利、上限0.5%に

日銀は20日、金融政策決定会合で、長期金利の上限を0.5%に引き上げた。これは、日銀が2013年に導入した大規模緩和政策の修正である。日銀は、物価高と円安の悪化を背景に、金融政策の修正が必要と判断した。長期金利の引き上げは、日銀が市場に示した利上げの事実上の利上げである。日銀は、長期金利の上限を0.5%に引き上げた。これは、日銀が2013年に導入した大規模緩和政策の修正である。日銀は、物価高と円安の悪化を背景に、金融政策の修正が必要と判断した。長期金利の引き上げは、日銀が市場に示した利上げの事実上の利上げである。

金利抑え込み 限界

2022年12月21日付1面より

機動的な金融政策の一步に

回復のために必要なことは何か。私は金融緩和と環境を生かしながら、国と地方がそれぞれの立場で産業政策を再構築することが重要だと思ふ。昭和の時代、わが国は大戦、2度の石油危機などを乗り越えながら、鉄鋼、電機、自動車などの産業が付加価値を高め日本経済をけん引してきた。改めて現在の日本の特徴を見ると長寿先進国、防災強化国、安心・安全国、自然・文化豊かな地方などだ。他国に類のないこつした特性を生かした産業振興に注力することこそが、経済の体質改善を促し日本の成長力を高めるのではないだろうか。

最終面に掲載

(引用記事は14日付電子版)



電子版利用
のための
登録は
こちら